

JCHO 福井勝山総合病院 地域協議会 第5回（臨時） 議事録

開催日 平成29年3月10日 13:00～13:50

開催場所 病院2階講堂

出席者 大西委員、竹内委員、平泉委員、松田委員、
杉平委員、安川委員、兜委員

院長挨拶の後、次の議題について協議した。

議題：

1. 今後の地域協議会の運用について

当協議会については、独立行政法人地域医療機能推進機構法第20条に基づき設置しております。当協議会の運用について次のとおり変更いたしたく審議をお願いします。

【変更点】

- ① 年1回以上の開催としていたところを複数回の開催といたします。
- ② 委員会の委員名簿をホームページに掲載させていただきます。
- ③ 議事録（委員の確認のうえ）をホームページに掲載させていただきます。
- ④ 今後の運営に関することについて協議会の意見を踏まえた当院の対応状況についてホームページに掲載させていただきます。

【審議結果】

反対等の意見はなく、承認をいただきました。

2. 地域協議会設置要綱の改正について

上記の変更に伴う設置要綱の改正について承認をお願いします。

【審議結果】

反対等の意見はなく、承認をいただきました。

3. 平成28年度地域関連事業について

当協議会で要望等があった事業である JCHO かつやま健康フェスティバル、高齢者向け健康サロン、防災訓練の3点について資料を基に開催報告及び説明を行う。

【ご意見等】

Q： 高齢者向け健康サロンについて出前講座的なことは今後可能か？開催規模等やメニュー等についてはどうか？

A： 積極的に実施していきたい。メニューや規模等については今後検討を行い、早めに対応をいたします。

4. 意見交換

Q：出産の再開についてその後の動向はいかがですか？

A：常勤医師については平成30年頃を目途に確保できるように福井大学と調整中です。
しかし、出産体制については、日本産婦人科学会等の見解では3名以上の医師が必要であるとのことと、当院の助産師についても長期間お産に立ち会っておらず非常に厳しい状況です。

Q：JCHO本部による職員定数管理とはどのようなものですか？

A：本部より職員定数について6月～7月ぐらいを目途に示される予定です。定数については現状及び生産性等を加味して採用枠が示されると思います。医師及び看護師については本部と協議の上決定することができると思われませんが、事務系についてはかなり厳しくなると考えられます。

Q：病床数の削減について情報等がありますか？

A：地域医療構想ということで2025年に団塊の世代が75歳以上になることを見据えて、医療提供の見直しを実施されます。福井県全体で1万床ほどある急性期病床を全体の75%程度に抑え、回復期に移行するといった趣旨となっています。昨年の3月までにまとめられて政府に報告はされています。強制力はないということにはなっていますが、不明な点があります。

現状としては、奥越の診療を当院がしっかり実施していき稼働率等を維持していくことが必要であると考えています。

問題点としては、2次医療圏からの流出率が4割近くあるとのことでした。

医療資源（医者、診療機器）を地方へ配分した上で流出しているのであれば病床数削減については仕方ないことであると考えられます。しかし、現状、福井市内に大規模な病院が3つも一極に集中している状況であり、そちらに患者が流出しています。関係の会議等で伝えてはいますが難しい状況です。

当院では、医師の確保や医療機器の更新については努力しています。

Q：患者の意思に沿ったような治療をお願いしたい。また接遇についても改善し、患者流出につながらないような対応をお願いします。

A：多くの職員は誇りを持って仕事をしています。一部職員についてはそうでないものも見受けられるのも事実です。気が付いたら注意をしていますが、接遇については委員会等で検討し改善に向けて努力します。

【委員からの提言】

患者に対する思いやりは、かかりつけ病院として重要なことであり、全職員に対して意識付けが必要である。専門性が高くなってくると医師としての意識、またスタッフの意識がどんどん薄くなってきているということが大きな問題であり、職員全体で一人一人の患者を守るという意識付けの向上が重要であると感じています。

急性期→回復期→慢性期と順に病院を選択し患者さんがペイシェント・ジャーニー※1（機能細分化）を行政が進めています。その際、誰かが見守り、トレースできるような人材を育てる。その中でオーガナイザー的な医師や看護師などといった人がいなければならぬと思っています。病院に来られた患者が内科などに受診した後、他所の病院に紹介してもその後どうなったかを最後まで見届けることができるようなことができれば繋がりが良くなると思われます。

産科の問題にしても夢のような話ではあるが妊婦に対して最後まで見届けるという意識で医師が最後まで寄り添える体制作りができればと思っています。

最後に、患者流出が多いというのはそれだけの資源を地方にも流してもらわないと地方がしっかりと医療を実施できないということなのでその点について、議事に載せ声を大にしてしっかり伝えてください。

協議会の開始時刻（13：00）および開催曜日（金曜日）については、現状のままでよいとのことで確認をいただき閉会としました。

※1 ペイシェント・ジャーニーとは患者が病気を告知されたときから終末期、看取り、または完治までに患者が体験する医療提供者とのすべての接点を旅に例えた名称